

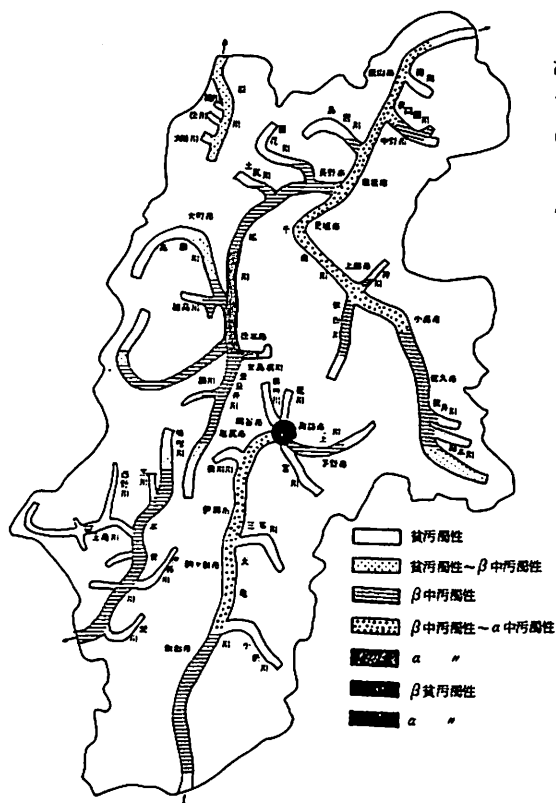


図1. 附着藻類植生による生物学的な水質判定

〔植物ニュース〕 111. ミヤマキンバイ *Potentilla matsumurae* Wolf

ミヤマキンバイの葉は、通常3小葉からなるが、北海道の定山溪に近い無意根山（1460.5 m）で武藤季吉氏が5小葉からなるミヤマキンバイを採集され、山本岩亀氏により、同氏著「後志植物誌料（四）」（1938）で、ゴヨウミヤマキンバイという和名と共に *Potentilla Matsumurae* var. *Mutoi* という学名にラテン語の記載文がつけられて発表された。勿論配布範囲の狭い、個人の出版物であるから、このゴヨウミヤマキンバイの発表は正式発表とは認められないが、筆者自身高山植物に興味を持っていたので、過去における何十回かの無意根山登山の際に、注意して探して見たのだが、5小葉のミヤマキンバイを見付けることはできなかった。

ところが、1986年8月30日に、白馬連山の鑓ヶ岳で、小葉が5枚からなるミヤマキンバイを幾株か発見した。注意して見ると、株全体が5小葉からなる葉をつけているものは稀で、同じ株から3小葉と4小葉と5小葉が混ざって出ている。この状態から考えて、5小葉を持つという形質は固定的なものではないらしく、独立の分類群とする必要もないと思わ

れるが、5小葉を出しやすい土壌や気象条件があるのかも知れない。

現場は多数の登山者の通る場所であるから現にお気づきの方も多いと思うが、日本のミヤマキンバイの自生する各地で、5小葉のものがあるかどうか注意して載きたいと思い、ここにご報告する次第である。

（豊国秀夫）

112. ムラサキシロウマリンドウ *Gentianopsis yabei* Ma f. *violacea* Toyokuni

白馬鑓ヶ岳の鑓温泉附近には、花冠が帯赤紫色のタカネリンドウが自生している。花色は、南アルプスのアカイシリンドウよりも若干濃色である。アカイシリンドウの分類上の位置については、1982年に山崎敬博士が、タカネリンドウ（シロウマリンドウ）の変種とする見解を発表され、さらに、アカイシリンドウ型の白花品に対し、シロバナアカイシリンドウと命名された。

白馬鑓ヶ岳の帯赤紫色の花をつけるタカネリンドウは、アカイシリンドウ型ではなく、タカネリンドウ型なので、新たに、ムラサキシロウマリンドウと命名した。正式には、「信州大学教養部紀要第21号（1987）」に発表済みである。

（豊国秀夫）

文 献

- 落合照雄（1981）長野県主要河川における藻類植生と水質汚濁 1 - 355 長野県生活環境部公害課
——（1978）裾花ダム湖とその流入河川裾花川の陸水学的研究（Ⅰ） 長野市水道局
——（1980）——（Ⅱ）——
長野県（1979）公害白書 p. 53~55。